

◆◇コラム◇◆ 現金商売でなければ、現金管理をしないのもあります

毎日現金を受け取ったり支払ったりする現金商売の方でなければ、現金の入出金件数も少なく、金庫などで事業用の現金を管理することは煩わしいだけの作業になります。そういった方については現金払いの必要がある都度、事業用の預金から大体の金額を「事業主貸」勘定をつかって個人の財布へお金を移し、その個人の財布（個人の現金・クレジットカード・口座）からすべて立替えて支払い「事業主借」勘定を使って精算する方法が簡単になります。

この方法ですと、「大体必要な金額」を事業の口座から個人の財布に入れて、その後個人の財布から実際に払った金額だけを入力するだけで、管理が簡単です。また金庫がないと現金残高を管理する必要がないので、「現金残高が合わない…」という悩みからも解放されます。ただこの方法の場合には「残高」を管理しないので、領収書などをきちんと置いておかないと、計上もれがあっても分からないので注意が必要です。

現金管理をしない場合、こういった流れで処理をします

1. おおまかな必要額を事業用の口座から引き出す



事業用の口座		普通預金(兼お借入明細)		個人の財布	
行数	日付	お払戻金額	お預り金額	摘要	差引残高
1				繰越	230,000
2	2009/10/1	200,000		ATM 普通預金無残払い	30,000

個人の財布へ20万円引き出し

2. 必要な経費を個人の財布から支払い、領収書を保管しておく

3. 月に一度程度、領収書を見ながら仕訳日記帳で下記のように「事業主借」勘定で入力していく。

仕訳日記帳															
期数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	決	全期累計	ジャンプ
決算	調整	日付	タイプ	借方勘定科目	借方金額	貸方勘定科目	貸方金額	摘要							
付戻1	付戻2	位置No.	生成元	借方補助科目	消費税額	貸方補助科目	消費税額	借方税区分	貸方税区分						
		10/01		事業主貸	200,000	普通預金	200,000	経費支払のため	現金引き出し						
		51				大江戸銀行/新宿									
		10/02		振替交際費	25,000	事業主借	25,000	個人立替款交代	〇〇店						
		52													
		10/05		旅費交通費	50,000	事業主借	50,000	東京新幹線往復チケット	〇〇チケット						
		53													
		10/08		消耗品費	90,000	事業主借	90,000	パソコン購入	〇〇電器						
		54													

※実際使った金額が16万5千円で、引出額と違っていても精算は不要なので簡単です。